

はじめに

『学習院大学史料館紀要』第一五号をお届けいたします。

当館客員研究員である徳仁親王・木村真美子、研究員の湯沢威の諸氏からの研究論文をいただいて、これを掲載することが出来ました。さらに、大阪歴史博物館の大澤研一氏より特別寄稿論文をいただきました。くわえて、本史料館助教・野尻泰弘、同学芸員・長佐古美奈子、丸山美季の論文を掲載いたしました。稿を寄せていただいた諸氏には、感謝を申し上げます。

本史料館は、昭和五〇年（一九七五）に学習院大学の附置研究機関として創設されました。ついで、同六〇年（一九八五）に博物館相当施設として指定を受けました。そして諸方面での活動を拡充しながら、現在に至っております。当館の活動として、平成一九・二〇年度は四回の展示（特別展示・常設展示）と、六回の史料館講座を開催いたしました。そして平成二〇年（二〇〇八）には、新しい試みとして、源氏物語千年紀記念シンポジウムを開催いたしました。この内容につきましては、本誌の特集「源氏物語千年紀記念シンポジウムの記録」をご覧くださいければ幸いです。

また、史料整理・研究はもちろんですが、史料館では、近年学内の建物調査に力を入れてきました。学習院大学の学内には、歴史をもつ建造物が少なくありません。目白キャンパスに現存する由緒ある建造物ならびに石碑等の調査を進め、『目白キャンパスの歴史ある建物』、『学習院目白校地の石碑・道しるべ』（共に二〇〇四年刊）等の調査報告

を作成しました。そして三月に、正門、北別館（史料館Ⅱ旧学習院図書館）、東別館（旧皇族寮）、南一号館（旧理科特別教場）、西一号館（旧中等科教場）、乃木館（旧総寮部）、厩舎の計七棟が、国登録有形文化財建造物として登録されました。次回の紀要では、この登録を記念いたしまして、二〇〇八年七月と九月に行われた建築や校舎に関する内容の史料館講座について紹介する予定です。

出版活動として、以下の著作物を刊行いたしました。『学習院キャンパス写真集 ピラミッド校舎の記憶―前川國男作品・中央教室―』『写真集 近代皇族の記憶―山階宮家三代』がそれです。当館の広報誌である「ミュージアムレター」とともにご覧いただければと思います。

平成一九年（二〇〇七）七月四日に、児玉幸多先生がお亡くなりになりました。先生が日本近世史の研究を主導されてきた第一人者であり、常に歴史学界の進展に尽力されてこられたことは、周知に属しています。本史料館にとりましては、その礎を築かれた恩師でもあります。このような事情から、「児玉先生を偲んで」と題しまして、小特集を組むことにいたしました。その詳細は、本誌に掲載した通りであります。

本史料館は、皆様のご助力のもとに発展を続けてまいりました。あらためて、引き続きのご助力をお願いするとともに、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

二〇〇九年三月

学習院大学史料館館長 井 上 勲